

書名：銃・病原菌・鉄

著者：ジャレド・ダイヤモンド

訳者：倉骨彰

出版社：草思社

出版年月：2012年2月

総ページ数：上 416 ページ 下 432 ページ

ISBN：上 9784794218780

下 9784794218797



推薦者

大林正史

鳴門教育大学大学院講師
教職実践力高度化コース

～諸文明間の格差を生み出した要因は何か～

「白人は、たくさんのもを発達させてニューギニアに持ち込んだが、私たちニューギニア人には自分たちのものといえるものがほとんどない。それはなぜだろうか？」(上巻、24頁)

上記は、1972年に著者がニューギニアの優れた政治家であるヤリという人物に尋ねられた疑問である。しかし、当時の著者は、この疑問に答えることができなかったという。著者は、ヤリとの会話の後、人類の進化、歴史、言語などについて研究し、ヤリとの会話の25年後に、ついに著者なりの答えを導きだした。本書には、その答えが記述されている。

この図書紹介を読んでいるあなたも、一度は上記のような疑問を抱いたことがあるかもしれない。あなたの中に浮かび上がってきたであろうこのような疑問に対し、あなたは、例えば、次のような仮説を立てたことはないだろうか。

ニューギニアは年中温暖で、自生する食料が豊富にあるため、人々は食料を得るための様々な努力をしなくてよい。一方で、ヨーロッパは冷涼であり、自生する食料が少なく、人々は食料を得る努力をしなければならなかった。この差が、ヨーロッパの人々とニューギニアの人々の差を生み出してきた。

かつて、私は、このような仮説を持っていた。だが、本書は、生態学、生物学、地学、地理学、歴史学、文化人類学、といった様々な学問分野から得られた豊富なデータによって、この仮説を見事に打ち砕いてくれる。では、果たして、何がこうした差を生み出したのであろうか？気になったあなたには、ぜひ、本書を手にとり読み始めてもらいたい。

本書は、1998年度、ピューリッツァー賞一般ノンフィクション部門を受賞している。また、朝日新聞「ゼロ年代の50冊」の企画で第一位に選ばれている。プロローグを読むだけで本書に夢中になること、うけ合いである。

